

令和6年度第1回埼玉県秩父地域医療構想調整会議 議事概要

1 日時及び会場

令和6年8月19日（月）午後7時から午後8時25分
Zoomによるオンライン開催

2 出席者

- ・調整会議委員（別紙名簿のとおり）
委員総数19名、出席16名、欠席3名（うち、代理出席1名）
- ・地域医療構想アドバイザー 1名
- ・事務局：保健医療政策課、医療整備課、秩父保健所 計8名
- ・傍聴者 2名

3 あいさつ

平野 秩父保健所長

4 議題

(1) 会長、副会長の選出について

司会から委員に、会長及び副会長の推薦を促したところ、委員から、会長に井上委員、副会長に新井広美委員はどうかとの推薦があった。司会が全委員に諮ったところ多数の承認があったため、会長を井上委員、副会長を新井広美委員とすることに決定した。
代表して井上会長からあいさつがあった。

(2) 第1回地域医療構想推進会議の主な意見について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(井上会長)

今回、地域医療とまちづくりの連携についてさまざまな意見が出されているが、このようなアイデアは、特に秩父地域にとって参考になるのではないかと考える。

また、本庄児玉の患者さんの群馬県外への流出についての話題があったが、秩父地域では、圏域内での医療完結は困難と判断する。隣接する医療圏との協力体制や連携が非常に重要になると思う。

アドバイザーの斎藤先生にお尋ねするが、今後、秩父地域と隣接する医療圏との関係性について何かアドバイスがあれば、お願いしたい。

(齊藤・地域医療構想アドバイザー)

以前にもお話したと思うが、やはり高度急性期をどの圏域でもしっかり持つことは難しいことである。そこを目指すよりは、その後の急性期から慢性期に至るまで、そして在宅に向けて特に秩父圏域の場合は、在宅医療と介護連携が重要である。高度急性期は他の圏

域に多少ゆだねなければならないところがあるかもしれないが、その後の体制をしっかりとることが良いと思う。

北部や、先ほどお話しが出た本庄児玉は、県域だけで成り立ってなくて、群馬の群馬大学との連携が非常に重要になっている。どの地域でも、隣接する圏域とどのように連携するか、今までは圏域内だけでの話し合いになっていたが、やはり年に一度ぐらいはそうした調整会議を開く必要があると思う。

(井上会長)

非常に参考になるお話しで、まさに今後の秩父地域の医療に関係してくると思う。

現在、秩父市立病院では建替え問題が問題になっているが、市立病院としてこの辺りのご意見をお聞きしたい。

(古屋敷秩父市立病院事務局長)

市立病院の建替えが必要なのは、公立病院としての立場や秩父地域での中核病院としての位置づけに関係している。現在、165床で運営しているが、建替えに向けて、運営形態を含めてどのような機能を持たせるかについて、会議で皆さんからご意見をいただいた中で、進めていければと考えている。

(井上会長)

まだ始まったばかりであるが、この話はどんどん進むと思うので、事務局長よろしくお願ひしたい。

現在は医師、看護師や介護士ばかりではなく、調剤薬局の薬剤師とか、歯科クリニックの歯科衛生士の不足も深刻と聞いている。今泉会長、吉田会長一言ずつお願ひしたい。

(今泉委員)

今、医師会長からのお話しのとおり、薬剤師不足の問題もあり、秩父地域に定着していただけないところがある。

特に秩父地域では、機械の導入が進んでいないこともあり、薬剤師になっても地元での就職が難しい現状がある。私たちも人材確保に努力しているが、なかなか思うようにはいかない部分もある。今後はルールの見直しや検討もしていきたいと思うので、皆様からのご支援やご指導もいただければと思う。

(吉田委員)

歯科の方でも、歯科衛生士の不足が急務となっているが、やはり県南や隣の地域に出してしまうことが多い。若い衛生士さんが多いが、子育てが終わり、再びパートとして働きに戻ってきていただける方もいるので、そのような状況を上手く調整しながら、今後も考えていきたい。

(井上会長)

このような意見は、なかなか県の方までは聞こえていないと思う。そのため、ぜひ保健医療政策課の方は、このような現状もぜひ把握し、今後各地域でも把握していただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

また、看護師確保については、県医師会でもよく話しをするが、一番問題なのは、看護師の志願者が減っていることである。そのため、養成機関への補助金ももちろんありがた

いが、看護師志望者を増やすということを、何か工夫できないかと思っているので、県の方でもよろしくお願ひしたい。

(3) 地域医療体制の推進に係る課題解決に向けた今年度の圏域における取組について

ア 圏域別フェイスシート（令和5年度更新）の課題について

秩父保健所から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(井上会長)

前回のこの会で話し合った内容であるので、それぞれの団体に進めていただきたい。

イ 地域医療における連携に関するアンケート調査と議論の進め方について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(井上会長)

せっかくアンケートを取るのであれば、実際に現場に反映されるものでないと困ると思うが、アドバイザーの斎藤先生いかがか。

(齊藤・地域医療構想アドバイザー)

先日、アドバイザー間で意見交換の場があった。その場で、県から自由記載方式のアンケートの提案があった。しかし、アドバイザーたちの共通意見として、自由記載をまとめることは難しく、また、回答しにくいという意見もあった。そのため、できるだけチェック式や選択式のアンケートを増やし、それに加えて自由記載も含める形にする意見が出た。現在、県でその案を作成していると思われるが、地域のニーズをしっかりと捉えたアンケートにする必要がある。多くの方に協力していただけることを願っている。

ウ 地域包括ケアシステムの推進に向けた今年度の取組について

秩父市、皆野町及び長瀬町から、地域包括ケアシステムの推進に向けた今年度の取組について説明がなされた（横瀬町及び小鹿野町は欠席、横瀬町から資料提供あり）。

【主な質問・意見等】

(井上会長)

県の保健医療政策課から発言はあるか。

(保健医療政策課)

秩父地域の取組について紹介いただいた。この地域は広い面積を持っており、そのことが不利になっているという課題がある。地域の住民同士の距離が離れているため、医療や介護の提供方法について真剣に考えていることを再認識した。

特に山間部では、介護サービスが限定されていることが地域包括ケアの大きな課題となっている。厚労省でもIT化による解決策を研究しているが、人の手で行わなければならないサービスについては、まだまだ課題が大きいと感じる。今後も研究を進め、どのような取組が可能か考えていきたい。

また、ごみ出しを通じて住民との関係を築くことも非常に参考になり、長瀬町の会議に町民の方が参加されていることも、利用者が知ることの重要性を感じた。

(井上会長)

ぜひ、秩父圏域の地域包括ケアについて、県の方からもたくさんの協力をお願いしたい。

(4) 医療機関対応方針の協議・検証について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(平野委員)

資料3-1の2ページ目であるが、皆野病院は救急を行い、災害時連携病院であるが、表に丸が入っていないのは、どういうことか。

(保健医療政策課)

医療機関の回答に沿ってまとめたものである。

(白部委員)

当院には調査が来ていないから、載っていない。調査が送られれば回答する。

(保健医療政策課)

昨年度、当課からメールなどで回答お願いしたが、何かの手違いで反映されてないところがあれば、改めてお伺いしたいので、協力をお願いしたい。

(5) 第8次地域保健医療計画に基づく病院整備計画の公募について

(南部、東部、県央、川越比企、西部圏域)

医療整備課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】なし

(6) 令和6年度病床機能転換促進事業について

医療整備課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(平野委員)

補助対象は回復期病床となっているが、地域包括ケア病床に関しては、急性期医療でも取れると思うが、100パーセント全て回復期医療でなくてもよいことを確認したい。

(医療整備課)

地域包括ケアの回復期にあたる部分については、病床機能転換促進事業で補助したいと考えている。

(井上会長)

斎藤先生にお伺いしたいが、秩父地域ではご存じのとおり、各病院ごとにベッドの転換を考えるのではなく、地域内の病院が協力して全体を見ながらベッドのすみ分けを考えていく必要があると思っている。これから先、医療資源が少なくなる中で対応していくのは難しいのではないかと思う。何か意見があれば、お願いしたい。

(齊藤・地域医療構想アドバイザー)

秩父だけでなく、川越などでも同様の議論が時々出ている。一つの医療機関だけで全てを賄うのは難しく、役割分担をしながら連携を取ることが重要だと思う。

先ほど秩父のフェイスシートを見たが、小児科や産婦人科の話題も出ていた。それに加えて精神科のことも考慮していくと思うが、地域医療構想が最初に始まった頃は、これらの科目については議論されていなかった。全く含まれていなかった。

最近になって、これらの科目も含めて進めようという声が上がってきており、それに伴い、単にベッド数を増やすだけでなく、各科目にとって地域に必要なベッド数や機能はどれくらいなのか、また在宅医療のデータも県レベルではまだ出ていないため、在宅医療や介護連携との統合データも含めて、今後進めていく必要があると思う。

最後に話そうと思ったが、今のところ本当に出てくるのは定量基準分析のようなもので、ベッドの機能や必要なベッド数だけでなく、各科目のデータがなかったり、その他の部分のデータもないため、これからそれらをきちんと作り上げていく必要があると思う。ただし、それは単に人口分布だけではないと思うので、先ほど話しがあったように、少し広い範囲で議論していく必要がある。どの程度の機能が必要で、どの科目が必要なのかについて、今後の議論を進めていただければと思う。

(井上会長)

現在の秩父地域ではこの保健所の会議などを見ると、各病院ごとの対応になっている。今後は地域全体でベッドの数をどう動かしていくかについて、相談する場所が必要だと思う。

また、行政や各病院とも協議して地域医療全体の枠組みを考えていきたいと考えている。その際には、中核病院として市立病院が担うことになると思われるが、市立病院の事務局長にも何かご意見があれば、お伺いしたい。

(古屋敷秩父市立病院事務局長)

先ほど産科小児科という診療科目が挙がっていたが、秩父地域で入院施設がある病院は、小児科については当病院になる。先ほど会議の当初にも触れたが、建設に向けてどのような形で、今後対応していくかということが非常に重要になってくると思う。公立病院と民間病院との連携、病床の連携についても、どのような形にしていくのか、話し合いをして役割分担できるような内容になるのであれば、役割分担できればと思っている。

(井上会長)

今日初めて事務局長から、公立病院と民間病院の連携という言葉聞いた。本当にこれはもう、願ってもない言葉で、これまで市立病院だけとか、公立病院だけというような流れで来たものが、やはり秩父地域にとっては、公立病院と協力して、民間病院が入ってこない駄目だと思う。

ぜひ、市立病院も皆さんそういうつもりで動いていただき、秩父市の方にもそういうふう動いていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(7) 令和4年度病床機能報告・定量基準分析について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】なし

(8) 令和5年度外来機能報告の結果及び紹介受診重点医療機関について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】なし

(9) その他

(井上会長)

地域医療調整会議は、県やアドバイザーの先生の出席もあり、非常に医療現場で役立つ会議だと思っている。委員の先生方で万一欠席の場合は、可能な限り各所属団体の中で、代理を立てていただきたいと思っている。平野所長よろしいか。

(平野委員)

このような要望があるとのことで、できればそうしていただけるとありがたいと思っている。

(井上会長)

無理にということではないが、できる限りの対応をお願いしたい。

最後に、地域医療構想アドバイザーの斎藤先生から、全体的なご意見をお願いしたい。

(斎藤・地域医療構想アドバイザー)

保健医療政策課からの定量基準分析等の説明があったが、4つの機能に必ずしも綺麗に分かれていないという部分がある。私たちの病院は回復期リハビリテーション病棟を持っているが、入院してくる時期がかなり早まってきている。急性期の治療の途中で回復期に移ってくるような人もいたり、今度はその回復期以降の方に退院できないと、もう慢性期の時期に入っていたりする。やはり綺麗に4つの機能が分かれているわけではなく、少し重なり合いながらの部分もあるので、どの機能がどれくらいの割合で行われているかも大事かもしれないが、全体的に見て患者さんがどういう流れで在宅に帰れるのか、施設に移るのかといったことも、今後はしっかり見ていく必要がより一層あると思う。

簡単に言えば、診療報酬と連動していないので、地域医療構想においても考慮しながら現場で考えていく必要があると思う。あと、回復期リハビリテーションについても一つだけ言えば、脳血管障害中心で行っている回復期と、整形疾患中心で行っている回復期では入院患者さんが全く異なるので、より具体的に細くなっていくことを頭に置いておかないと、数字合わせだけで終わらないようにしないといけないと思う。

それから結構大事なのは令和7年度までに着工を予定して今回公募も出ているが、現場では実はあまり不足感がない。

そのため、現場での感覚と出てくる数字との調和をうまく取っていかないと、本当の状況が見えてこないし、今着工しろと言われても、実際には人材が不足している。

先ほども出ていた、順天堂はまさに人材不足で、オープンができない状況である。

そういうこともかなり大きく影響してくるので、計画は計画である一方で、現実と調整

しながら進めていく必要があると思う。

そのため、秩父地域では、今の議論を進めていくのが一番良いと思う。

なお、国に在宅医療介護連携推進事業があり、私はその委員になった。もし地域医療構想の進行に関連するデータが必要な場合は、国のデータを提供できると思うので、いつでもお知らせいただきたい。

(閉会)